談話会

テーマ

『農業者の所得増大に向けた低コスト・省力化栽培技術について』

10月31日、種苗交換会のメイン行事である談話会が、秋田県JAビルで開かれました。

生産数量目標の配分がなくなるなど、米生産が転換期を迎える中、水稲の高密度播種や直播栽培、園芸メガ団地、先端技術を活用したスマート農業などの現状、課題について農事組合法人や生産者、JA、行政関係者、流通関係者ら10人が談話会員として参加し、県立大生物資源科学部の西村洋教授が議長を務め意見交換が始まりました。

稲作の低コスト・省力化の討議では、潟上市の安田淳一さんが種もみを直接圃場にまく直播栽培について説明し「育苗作業の負担はかなり減ったが、収量や品質確保の面では課題が残る」と述べました。また、大仙市の農事組合法人・たねっこの工藤浩一さんは、育苗箱1箱当たりの種もみを増やす高密度播種の取り組みについて話し「農地10アールに苗を植えるのに必要な育苗箱の数は、20枚から8枚まで抑えられた」と紹介しました。

その他にも、ドローンの空撮を利用して生育のばらつきを把握し、施肥に取り組んでいるという法人もあり、農業所得の増大のためには一層の技術確立が必要との意見が多く出されました。

学校農園展 3校が受賞

主会場では、児童らが学校農園活動を通じて得た知識や経験をまとめた、学校農園展が開催されました。

今年は県内の中学校1校、小学校8校、支援学校9校が出展し、優良賞に鶴形小学校、審査員特別賞に淳城西小学校、能代支援学校が見事入賞しました。

↑淳城西小学校の活動の記録

農業機械化ショー

協賛第2会場では、最新の農業関連機械を展示する農業機械化ショー開催され、高性能のトラクターやコンバインなどずらりと並び、来場者の注目を集めました。

来年の種苗交換会は「大館市」で開催！